

病虫害発生予察特殊報第1号

平成13年6月8日
三重県病虫害防除所

本県において、アルファルファタコゾウムシの発生が、初めて確認されたので特殊報として発表する。

1. 病虫害名：アルファルファタコゾウムシ
Hypera postica (GYLLENHAL)

2. 発生確認作物名：アルファルファ

3. 発生確認地域：中勢地域

4. 発生確認の経過：近県において、本虫の侵入、多発生が報告されるなか、5月16日にアルファルファ栽培圃場（一志郡嬉野町）において、アルファルファの葉を食害するゾウムシ類の幼虫が確認された。飼育下で、後日羽化した成虫は、名古屋植物防疫所によりアルファルファタコゾウムシと同定された。また、5月25日に上記圃場を調査したところ、幼虫とともに、成虫の発生を確認した。

5. アルファルファタコゾウムシについて

1) 形態

成虫：体長4.0～6.5mm、地色は褐色～黒色で、体の表面は灰褐色の鱗片で密に覆われている。背面中央部は濃色紋となっているが、個体変異が大きい。長命な個体では上翅の鱗片が脱落して黒色となっている場合が多い。

幼虫：孵化直後は、ほとんど無色透明であるが、生育するにつれて緑色を帯びる。

老熟幼虫は、体長約10mmで、背面中央に1本の明瞭な白い条線がある。頭部は黒色で脚はないが、腹部に良く発達した疣状突起がある。

2) 生態

年1世代であり、5～6月頃に羽化した新成虫は、6～10月頃まで、木の皮の亀裂や落ち葉の下で夏眠した後、寄主植物に移動し、翌年5月頃まで摂食、交尾、産卵を行う。

幼虫発生の最盛期は4月頃である。幼虫は4月下旬頃から繭を作り蛹化する。

3) 寄主植物

主にマメ科の雑草や牧草に寄生することが知られている。

日本での野外での加害植物は、アルファルファ、レンゲ、ウマゴヤシ、コメツブウマゴヤシ、シロツメグサ、ムラサキツメグサ、カラスノエンドウ、フェアリーベッチ等がある。

4) 分布等

ヨーロッパ原産で、ロシア、西、南アジア、北アフリカ、北アメリカに分布している。

日本では、昭和57年に福岡県及び沖縄県で初めて発見され、以来分布を拡大し、近年では、平成11年に岐阜県と滋賀県で確認されたことが特殊報により報告されている。

6. 防除対策

1) 翌年の発生密度を下げるために、新成虫が出現するまで（5月上旬頃まで）に、寄主植物を完全に収穫するか、耕起、湛水を実施する。

2) マメ科雑草（カラスノエンドウ）にも寄生するため、圃場周辺の雑草管理を徹底する。